

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095) 827-5382
FAX (095) 826-2976
編集責任者 平井秀治
一部 10円

高教組メールアドレス
info@nagasaki-kokyoso.org



満場一致で議案可決

第213回定期中央委員会

長崎高教組は1月28日、諫早市で第213回定期中央委員会を開き、6月の大会までのとりみや暫定予算などの議案を満場一致で可決しました。会議の冒頭、平井委員長は挨拶で「高教組のとりくみに自信を持ち、要求活動や新しい仲間を迎えとりくみをすすめる重要性」を強調しました。中央委員の参加は49人で、活発な発言裏面が相次ぎました。

教育長「誠意を持って対応」を約束

現給保障廃止問題 決着

現給保障廃止に関わる高教組の回答全文は以下の通り。渡辺教育長はこれに対し、改めて「誠意を持って対応する」と回答しています(1月27日)。

「2011年12月26日から2012年1月25日までの4回の交渉で、示された県教委の回答に①人権尊重の立場を堅持については、『新給料表で直近上位に至るまで全額を保障する』としていたものを、途中で廃止する」といふ約束違反である点、国の動向が不透明である点、他の都道府県の中でも廃止を確定した県が2県しかない中で、九州ではトップを切って廃止に踏み出す点で大きな不満が残る給保障額が大きくなって

いた背景にある、現行の2級格付け制度について、他県の状況や教諭との均衡も含めて総合的に検討し、来年度の確定交渉より前の時点で、『それなりの提案をする』との回答が示されたこと。④現業からの任用替えの職員の中で、任用替えによる賃金低下と、現給保障廃止によって大幅な賃下げになる職員や、任用替えを1年待機させられたために、現給保障廃止による不利益を被ることになった職員の問題について、『検討する』との回答が示されたこと。上記の③④などの残された課題について、今後とも、県教委の誠実な対応を求めるものである。

第213回定期中央委員会 平井秀治執行委員長挨拶(要旨)

第1は、私たちの要求活動は確かな前進をみており、ここに確信を持ち要求で団結する意義を強調したい。

昨秋の確定交渉で、週休日の公的な生徒引率業務を、私たちがはついに、振替対象にすることができました。ここに至るまでに問題提起と討論、方針化、そして署名、交渉と多数論の人、多大なる時間、多くの財政を要しました。新人戦に対する一部振替が実現したのは、06年のことでした。当時、文化部を含めて引率業務に対する振替などの不備を指摘しながら、その拡充を要求する高教組に県教委は「一つ認めると高教組は何でもかんでも要求する」と言っていた私達の要求を押さえ込むような姿勢をとっていました。

現給保障廃止問題は、1月25日の第4回の交渉をもって終結する運びとなりました。この間、実教部の緊急集会や事務現業職員部の総会などを開き、また廃止による減額幅が大きい対象者の意見を聞くなどして、職場からの要求を大事にするという原則的なとりくみを行い、少なからず第2に、特にこの時期、職場を基礎にしたとりくみがどうして必要であり、その先頭に分会が立つ意義を強調したい。

1月から4月にかけては各学校とも実に忙しい日々を送ります。こうしたなかで分会こそ鳥瞰的立場に立ち、職場を、各教職員を見て不合理があれば、要求に基づき是正させることが求められています。例えば、時間講師が追試に関する仕事をやっているのかどうか、また期間付き教職員が春休みに指導要録などの諸表簿の点検を行っているか、それは任用の期間に入っているのかどうか、確認することが求められます。この確認に分会の出番があるのです。

第3に、長崎高教組に新しい仲間を迎えとりくみを気軽に、しかし、誠意を持って行う必要性を改めて呼び掛けたい。

私たちは、本年度85人の仲間を迎え、昨年度末の組合員数を回復することを目指してきました。いま、55人の加入を迎えています。声かけは不可能な課題なのか、率直に語り合い、しかし「これでやっという方針を決めたなら」とりくむことが必要です。苦労が続きますが、組織の強化・拡大は私たち組合員が自ら動かなければ前進しない課題なのです。「高教組にどうですか」という声かけが苦手であれば、相手の迷いや悩みをひたすら聞くに徹するのも信頼関係を築くひとつです。

ところで、核兵器廃絶アピール署名の呼び掛け人のひとりである日野原重明さんは、百歳の医者です。日野原さんは語っています。「年長者が出来る最も大事なることは、平和な世界を残す」として、「戦争放棄を明文化した日本の『憲法9条』を守り、『在日米軍が撤退し、自衛隊も武器の使用を放棄する』運動に『百歳まで生き』て『全力を注ぎたい』」と(朝日新聞 2012/01/4付)。

生徒・子どもたちには「平和な世界」を、父母国民には「安心できる教育条件」を、地域には「信頼される学校」を届けるためにもつながりを深めてるところです。こうした思いやとりくみの灯を絶やさないでいませぬ。その為には、青年教職員を高教組に迎えることが必要不可欠であり、青年教職員にとっても教育や子ども・生徒を考え、平和を考える上で大きな意味を持つことでもあるのです。



組合には長くお世話になります

教採合格を祝う会

「管理職を含めて職場の雰囲気非常に良い」「フォローしていただく担当の先生方も良い」...

長崎高教組は1月28日、第213回定期中央委員会を開催しました(表面参照)。

組合の魅力は仲間と一緒にやっていくこと



小田中央委員(小浜) 平和関係の催しとして、明29日、追悼平和記念館で被爆体験記朗読会が開催される。

原発廃止の活動に積極的に参加したい。全体に関わる分野 田島中央委員(波佐見) 私は3月で退職。組合の皆さんから温かい激励を受けて嬉しく思った。

役員業務は振替のみの対応となる

○中央委員会での質疑及び答弁は以下の通り(敬称略)

■鍛冶諫農 ①労働協約の締結権についての見直しと組合についてのプラス・マイナスはどうなるか。②協約締結の効力は組合員だけか、組合員以外にも及ぶのか。

論議続く 高校は全入か、適格主義でいくか

田向弘文(佐世保中央高夜間分舎) 1月28、29日開かれたシンポジウムのテーマという意見と全入を視野に入れた運動を提起するべきという意見があり、まだ議論の余地がある。